

平成 28 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	建築設備Ⅱ	担当教員	中谷岳史		
学年学科	第 5 学年 建築学科		後期	選択	1 単位(学修)
別表 1 対象科目 内規 19 条四別表 1 対象科目のみ					
学習・教育目標 (D-3、環境系) 100%			JABEE 基準 1 (1): (d)		
授業の目標と期待される効果： 建築物における設備の中で、給排水や空調・電気設備システムの仕組みや構成を理解することを目的とし、さらに実務における設備計画の手法を理解する。具体的には以下の項目を目標とする。 ①給排水設備の理解 ②衛生設備の理解 ③インフラ設備の理解 ④防災設備の理解		成績評価の方法： 定期試験 100%とし、総得点率によって評価する。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 達成度評価の基準： 一級建築士問題や教科書の演習問題と同等のレベルの課題及び試験を行い、下記レベルまで達していること。な ①給排水設備に関する説明がほぼ正確(6割以上)にできる (30%)。 ②衛生設備に関する説明がほぼ正確(6割以上)にできる (30%)。 ③インフラ設備に関する説明がほぼ正確(6割以上)にできる (20%)。 ④防災設備に関する説明がほぼ正確(6割以上)にできる (20%)。			
授業の進め方とアドバイス： 教科書の写真や図では理解しにくい設備はスライドなどによって前半紹介する。これらをきちんと見て概要を理解しておくことが、その後の講義を理解する上で重要となる。また、日常生活において関連設備に常に触れることが可能なため、意識して生活することが理解の早道となる。					
教科書および参考書： 教科書：最新建築設備工学（田中俊六監修、井上書院） 資料：建築環境工学用教材 設備編（日本建築学会編、丸善）					
授業の概要と予定：前期			教室外学修	A L のレベル	
第 1 回：給排水設備（システムの種類と構成 1）			日常生活における給排水設備の確認・調査		
第 2 回：給排水設備（システムの種類と構成 2）			日常生活における給排水設備の確認・調査		
第 3 回：給排水設備（システムの種類と構成 3）			日常生活における給排水設備の確認・調査		
第 4 回：給排水設備（システムの種類と構成 4）			日常生活における給排水設備の確認・調査		
第 5 回：衛生設備（システムの種類と構成 1）			日常生活における衛生設備の確認・調査		
第 6 回：衛生設備（システムの種類と構成 2）			日常生活における衛生設備の確認・調査		
第 7 回：衛生設備（システムの種類と構成 3）			日常生活における衛生設備の確認・調査		
第 8 回：衛生設備（システムの種類と構成 4）			日常生活における衛生設備の確認・調査		
第 9 回：インフラ設備（システムの種類と構成 1）			日常生活におけるインフラ設備の確認・調査		
第 10 回：インフラ設備（システムの種類と構成 2）			日常生活におけるインフラ設備の確認・調査		
第 11 回：インフラ設備（システムの種類と構成 3）			日常生活におけるインフラ設備の確認・調査		
第 12 回：防災設備（システムの種類と構成 1）			日常生活における防災設備の確認・調査		
第 13 回：防災設備（システムの種類と構成 2）			日常生活における防災設備の確認・調査		
第 14 回：防災設備（システムの種類と構成 3）			日常生活における防災設備の確認・調査	C	
期末試験					
第 15 回：設備機器のまとめ（期末試験の解答の解説など）					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	給排水設備に関する説明が正確にできる(8割以上)	給排水設備に関する説明がほぼできる(6割以上)	給排水設備に関する説明ができない。
②	衛生設備に関する説明が正確にできる(8割以上)	衛生設備に関する説明がほぼできる(6割以上)	給排水設備に関する説明ができない。
③	インフラ設備に関する説明が正確にできる(8割以上)	インフラ設備に関する説明がほぼできる(6割以上)	給排水設備に関する説明ができない。
④	防災設備に関する説明が正確にできる(8割以上)	防災設備に関する説明がほぼできる(6割以上)	給排水設備に関する説明ができない。